特定主題における複数図書館の
コレクション比較の可視化に関する研究

大阪 菜都子

ある特定分野の情報が必要になった人が、その情報を集めるために選ぶ手段の 1 つとして考えられるものが図書館である。しかし、公共図書館であればその地域に関わる郷土資料、大学図書館であれば所属する大学が設置する学部に関わる資料をより専門に所蔵すること、また資料の除籍に伴う共同保存の考えもあることから、全く同じコレクションを持つ図書館は存在しないことが推測される。これを前提に考えると、ある情報要求を持つ利用者にとって、充実したコレクションを持つ図書館とそうではない図書館が生じることになる。仮に利用できる図書館が複数ある場合、利用者は調べたい分野の情報をより多く得られそうな図書館に足を運びたいと考える場合が予想される。また、図書館の資料はある規則に則り、主題ごとに排架されているため、主題による検索を行いやすい。

こうした背景から、特定の分野に関する情報を求める人が、いくつかの図書館の蔵書を主題によって比較し、その主題の情報をより多く得られる可能性が高い図書館を見つけるためのツールが必要だと考えた。そこで、複数の図書館の OPAC を用いた NDC による主題検索結果を可視化するシステムを提案した。

図書館選択場面における、提案システムによる可視化手法の有効性を検証・評価するため、既存システムとの比較実験を行った。既存システムとして用いたのは、筑波大学附属図書館、茨城県立図書館、土浦市立図書館、つくば市立中央図書館、牛久市立図書館の OPAC である。実験では、学生 16 名を参加者として、用いるシステム（既存システム及び提案システム）と検索課題（課題 1 及び課題 2）の 2 条件の比較実験を設計した。検索課題では、提示した NDC（第 3 次区分）を検索クエリとして検索を行ってもらい、検索結果表示後、各図書館が所蔵する資料の件数を比較することによって、「実際につくば市から行く場合」、「距離（かかる時間）を考慮しない場合」の 2 つの条件でどの図書館に行くのか判断してもらった。その結果、提案システムによる可視化手法は、検索課題で提示した NDC を検索クエリとして複数図書館の OPAC を横断検索し、検索結果の件数を基に図書館を選択する、という条件において既存システムと比較することで有効と見なせることが分かった。しかし、NDC 以外の検索条件を使う場合や、件数以外の要素によって図書館を判断する場合には、提案システムの機能だけでは不十分である可能性がある。

さらに実用的なシステムにするため、今後は既存システムに見られる機能とのバランスを考慮しながら、検索結果の可視化画面から該当する資料の一覧を表示させる機能や、NDC 以外の検索条件による検索機能、移動距離を表示する機能の追加についても検討していきたい。これらの実現によって、最終的な目的である、効果的な図書館利用につなげることを目指す。

（指導教員　高久 雅生）